＜2026 年読売・郡司ひさゑ奨学基金奨学生の卒業報告＞

▼「人との出会いを大切にしてほしい」と後輩へアドバイス

九州・沖縄地方の大学を卒業した女性（信金職員）

大学卒業がいよいよ間近に迫ってまいりました。2 月初旬に後期末試験を終え、大学での授業はすべて終了いたしました。最後の授業では、これまでの 4 年間の学びを振り返り、感慨深い気持ちになりました。また、１２月末に提出した卒業論文の口頭試問も無事に終えることができ、大学生活もいよいよ締めくくりを迎えております。

３月に入り、引っ越しに向けて少しずつ部屋の片づけを進めています。大学生活の間に溜めたレジュメを整理していると、「こんな授業も受けたな」「この授業も面白かったな」と当時のことが思い出され、大学生活を懐かしく振り返る時間にもなっています。

また、私が所属していた茶道サークルでは、後輩たちが 4 年生の卒業を記念した茶会を開催してくれました。約 3 年間の活動の中で行ってきた数々の茶会やイベントを思い出しながら、ご指導いただいた先生方や先輩、後輩との思い出話にも花が咲き、温かく心に残るひとときとなりました。

大学の授業やサークル活動、アルバイト、友人との旅行などを通して、大学生活の中で多くの思い出を作ることができました。このような充実した大学生活を送ることができたのも、ひとえに読売光と愛の事業団様のご支援のおかげであり、心より感謝申し上げます。

後輩の皆さまへのアドバイスとしては、ありきたりかもしれませんが「人との出会いを大切にしてほしい」ということです。大学では、出身地から遠く離れた場所で生活を始めたり、アルバイトを経験したりと、多くの新しい出会いがあります。その中には、自分の考え方を広げてくれたり、良い影響を与えてくれたりする方々との出会いもあるはずです。周囲の人々との関わりを大切にしながら日々を過ごすことで、多くの学びや思い出を得ることができると思います。

大学生活で得た経験や思い出を胸に刻み、これからは信用金庫という新たな活躍の場で精進してまいります。今後とも温かく見守っていただけますと幸いです。

▼課外活動で相手の立場を考えて行動する大切さ学ぶ

首都圏の大学を卒業した女性（IT 関連企業）

大学生活を通して、私が大きく成長できたと感じているのは、相手の立場や状況を考えながら、自分で考えて行動する力です。入学当初は目の前の課題に取り組むことで精一杯でしたが、学業やゼミ活動、課外活動といった様々な経験を重ねる中で、少しずつ「どうすればより良くなるか」を自分で考えるようになりました。

学業面では、日々の積み重ねを大切にした結果、最終的に GPA3.7 を取得することができました。ただ授業に出席するだけでなく、ノートや資料をデータで一元管理し、AI ツールも活用しながら効率的に復習を行うなど、自分なりに工夫を続けてきました。このように地道に取り組み続けたことが、成果につながったと感じています。

卒業研究では、都内における使用済み紙おむつ再資源化をテーマに、地域活動に取り組みました。市民団体との連携やワークショップの企画・運営、アンケート調査を行う中で、実際に地域の方々と関わりながら課題と向き合う経験をすることができました。この経験を通して、課題は机上だけで考えるのではなく、現場の声や背景を知ることが大切だと実感しました。

また、課外活動として、青少年教育施設でのアルバイトや軽音楽部での活動にも取り組んできました。アルバイトでは、施設整備や事務処理など幅広い業務に携わる中でも、特にイベント運営が印象に残っています。事業ごとの目的を意識しながら、その場の状況に応じて関わり方を考えることを大切にしており、ある体験活動の場面では、スタッフが関わりすぎるのではなく、家族同士の時間を大切にするという目的を踏まえ、安全面を見守りながら必要なときにだけ声をかけるようにしていました。このように多様な立場の人と関わる中で、相手の状況を踏まえて支えることの大切さを実感しました。

一方で、軽音楽部では 4 年間ドラム演奏に取り組み、バンドの中で周囲と息を合わせながら一つの演奏を作り上げる経験をしてきました。個人としての技術だけでなく、周囲との関わりの中で成り立つ活動であることを実感し、協調性や継続力を養うことができました。これらの課外活動を通して、相手や周囲の状況を考えながら行動することの大切さを学び、それが現在の自分の考え方や行動の基盤になっていると感じています。

これらの経験を通して、私は相手の状況や背景を理解しながら支えることにやりがいを感じるようになりました。そのため将来は、企業を対象に業務改善を行い、IT を活用して生産性向上を支援する BtoB 企業に就職し、現場の声を丁寧に汲み取りながら課題解決に

貢献していきたいと考えています。

最後に、奨学金のご支援があったからこそ、これらの学業や活動に安心して取り組むことができました。経済的な支えだけでなく、多くの学びの機会をいただいたことに心より感謝しています。今後は社会人として責任ある行動を取り、この経験を社会に還元していきたいと考えています。

▼コミュニケーションを重ね、相手を理解する姿勢の大切さを感

関東の大学を卒業した女性（理学療法士）

大学での四年間を無事に終え、卒業の日を迎えることができたことを大変嬉しく思います。振り返ると、日々は非常に充実しており、あっという間に過ぎ去ったように感じられます。講義や実習、課題に追われる中で悩むことも多くありましたが、その一つひとつが自分自身の成長につながっていたと実感しています。

また、目標として掲げていた理学療法士国家試験にも合格することができました。このことは、これまでの努力が実を結んだ結果であり、大きな自信となりました。決して一人の力ではなく、支えてくださった先生方や家族、共に励まし合った仲間の存在があったからこそ乗り越えることができたと感じています。

大学生活において特に印象的だったのは、多様な価値観を持つ人との出会いです。自分とは異なる考え方や背景を持つ人と関わることで、新たな視点を得ることができ、さらに物事を多角的に捉える力が養われました。コミュニケーションを重ねる中で、相手を理解しようとする姿勢の大切さも学びました。しかし、思うようにいかず悩むことや、自分の未熟さを実感する場面も多くありました。そのため、その都度自分自身と向き合い、試行錯誤を繰り返すことで、少しずつ乗り越える力を身につけることができました。この経験は、今後困難に直面した際にも大きな支えになると考えています。

病院での臨床実習では、知識だけではなく、患者様一人ひとりに寄り添う姿勢の重要性を学びました。実際の現場でしか得られない経験を通して、理学療法士としての責任の重さとやりがいを強く実感することができました。

これからは理学療法士として社会に出ることになります。大学で培った知識や経験、人とのつながりを大切にし、常に学び続ける姿勢を忘れずに成長していきたいと考えています。そして、患者様一人ひとりに寄り添い、信頼される医療人となれるよう努めていきます。これまで支えてくださった全ての方々への感謝の気持ちを忘れず、今後は自分が誰かを支える立場として責任ある行動をとっていきたいと考えています。

▼異文化に触れて多様な価値観への理解深まる

関西の大学を卒業した女性（福祉系総合職）

このたびは、在学中に奨学金という形で温かいご支援をいただき、誠にありがとうございました。貴財団のご支援のおかげで、経済的な不安を軽減しながら学業に専念することができ、充実した大学生活を送ることができました。心より感謝申し上げます。

大学では英語を専攻し、語学力の向上だけでなく、異文化理解や国際的な視点についても学びを深めてきました。授業を通して様々な国の文化や価値観に触れる中で、世界には多様な考え方や生活があることを改めて実感しました。また、外国からの留学生や海外の友人との交流を通して、自分の視野が大きく広がったと感じています。

特に印象に残っている経験の一つが、フィジーでのチャイルドケアのボランティア活動です。現地の子どもたちや人々と関わる中で、日本とは異なる子育ての環境や文化に触れ、多くのことを学びました。ことばや文化の違いがある中でも、人と人とのつながりの大切さを実感し、この経験は私にとって大きな財産となりました。

卒業後は福祉分野の仕事に就く予定です。大学での学びや経験を通して、人と関わり支える仕事に魅力を感じるようになりました。直接的には大学の専攻とは異なる分野ではありますが、これまでに学んできたコミュニケーション力や異文化理解の姿勢は、今後の仕事においても必ず生かしていきたいと考えています。

また、入学前から抱いていた「将来、日本語を外国の方に教えたい」という思いも、今も大切にしています。すぐにその道に進むわけではありませんが、将来的には日本語教育や国際交流など、これまでの経験が生かせる形で社会と関わることができればと考えています。今回の奨学金を通して得た学びや経験が、今後の人生の様々な場面につながっていくと感じています。

改めまして、これまでの温かいご支援に心から感謝申し上げます。いただいた支援を糧に、これからも学び続け、社会に貢献できる人間になれるよう努力してまいります。

▼チャレンジしたい気持ちを大切に国家試験突破し美容師に

九州・沖縄地方の専門学校を卒業した男性（美容師）

僕が美容師になろうと思ったきっかけは、叔母さんが憧れていた職業で、よく美容の話をしてくれた事がきっかけでした。僕が進学した専門学校は、入学予定者に向けてのセレモニーがあり、初めてモデルを経験しました。洋服選びやウォーキング、フォーメーションの練習をして舞台に上がった時は緊張しましたが、今では良い思い出となっています。専門学校は綺麗で雰囲気も良く、生徒と先生の距離が近く相談しやすいところが良かった

です。
　入学早々、ヘアアレンジの授業でポニーテールを仕上げるテストがあり、自分だけ仕上げることが出来ず心が折れそうになりましたが、友人の支えで頑張ることが出来ました。授業は朝から夕方まであり、その後バイトに行く生活を送っていたので、正直慣れるまできつく、精神的に追い込まれた時期もありました。
　2 年生では国家試験対策で技能の授業が始まり、カット、ワインディングの練習をしました。学校のイベントも充実しており、運動会や高校生向けのイベントでファッションモデルをしたり、充実した学校生活を送ったりすることができました。国家試験対策として技能の練習や筆記の問題を朝 10 時から夜 10 時まで、繰り返し先生と取り組みました。国家試験当日は朝早くから学校で復習を行い試験に挑みました。本番では手足が震え緊張していたので、無事に終えた時は一安心したのを覚えています。
　入学した時期は美容師になる夢が揺らいだ時期もありましたが、友達や学校の先生とも相談し美容師として働くことにしました。美容師を目指している後輩の方々には、入学前と入学後のギャップを感じ、辞めたいと思うこともあると思います。辞めるのも良いと思いますが、チャレンジしたい気持ちがあるなら、授業は大変ですが最後までやり遂げることを進めます。友達や先生と相談しながら将来について考えてみてください。僕も早く一人前の美容師になれるよう頑張っていきます。

▼思うようにできないことも努力で上達を実感、達成感味わう

東海地方の専門学校を卒業した男性（調理師）

　このたび、私は 3 月 12 日に調理専門学校を卒業し、調理師免許を取得しました。二年間の学校生活を振り返ってみるとあっという間でしたが、とても充実していました。
入学をしたときは全部が初めてのことで新鮮でした。最初の実習では、包丁を研ぐ力を入れすぎて、刃が歪んでしまい自分は向いてないのかなと思いましたが、諦めずに練習を続けて、うまくできるようになりました。その後の実習では、桂剥きや鰺の三枚おろし、だし巻き卵などの日本料理、オムレツや人参の千切りなどの西洋料理、さらに中華料理では鍋振りやタケノコの細切りなど幅広い調理技術を学びました。最初は、思うようにできないことも多くありましたが、練習していくうちに上達を実感できとても嬉しかったです。
学科の授業では、食材、細菌、健康についてなど様々な専門的な知識を学びました。普段の買い物でも食品表示の成分を気にするようになり、調理の時には一つ一つの工程に意味があるのだと気づいたりして、もっと学びたい色々なことを知りたいと思うようになりました。
　また、専門学校で学んだことをいかし、勤労感謝の日に施設のみんなへ振舞う料理では手の込んだものが作れるようになりました。私が作った料理を食べた感想で「美味しかっ

たよ、ありがとう」と言ってもらえてとても嬉しくなり、自分が作った料理を美味しいと言ってもらえることが私にとって幸せなことだなと思いました。この経験は、この先の人生において役立つものになったと思います。

現在は、4月から補綴調理員の仕事に向けて準備をしています。最初は、何をするにも職場の上司に確認をしていくことが大切ですが、なるべく早く職場に慣れ、仕事を覚えていきたいと思っています。

私は、この二年間とても充実した学生生活を送ることができました。それができたのは、これまで支えてくれた施設の方や児童相談所の担当の方のおかげです。そして奨学金をいただけたことで、学校生活を安心して卒業まで継続することができました。

これからは、私自身が社会に貢献していき困っている人がいたら助けていきたいと思います。自分の料理を通して多くの人に幸せを届けたいです。

二年間のご支援ありがとうございました。

▼勉強だけでなく自分自身とも向き合い考えた2年間

信越地方の専門学校を卒業した女性（進学）

いつも御支援、応援ありがとうございます。

2年間通った学校生活も無事終わり、卒業が間近に迫ってきました。

この2年は、小さい頃から生活してきた施設から離れ、精神的な心細さや不安、悩みも多かったですが、勉強だけでなく、自分自身とも向き合い考えられた2年間だったと思います。

入学当初は、卒業後の就職や経済的安定への不安も強く、より多くの資格取得に向け、学業に励んできました。同時に、ボランティアや社会経験を積む中でたくさんの方と触れ合い、改めて自分の将来や、自分がしたい事も見つめなおすことが出来た2年間だったかと思います。その中で自分の好きを仕事にしている人たちは、とてもキラキラしており、自信に満ちているように見えました。そんな姿に惹かれ、私も改めて自分自身の事を振り返り、こうしてたくさんの人が応援し、支援してくれている間に、自分自身好きなことを学び、私の力にしていこう、そしてそれをまた誰かの為に返していこう、と思えるようになりました。

正直まだ将来への不安はぬぐい切れない部分もありますが、この2年間は皆さんのおかげでたくさんの勉強ができ、たくさんの学びが得られたことは私の財産となりました。また、こうして新たな選択が出来たのは、皆さんのお力添えや応援があったからだと思っています。

本当にありがとうございました。

▼困難な状況の中でも周囲の周囲の支えで前を向き続けた

首都圏の専門学校を卒業した女性（服飾ブランド）

専門学校での生活は想像以上に忙しく、課題の多さに加え、アルバイトや一人暮らしでの家事との両立に追われる日々でした。睡眠時間も削られ、体調を大きく崩してしまうこともあり、正直、学校を辞めて働くという選択を考えたこともありました。しかしその度に、先生や友人、自立支援員の方々など多くの人に支えていただき、「ここで諦めたくない」という気持ちを持ち直すことができました。周囲の支えがあったからこそ、困難な状況の中でも前を向き続けることができたと感じています。

特に専門学校２年次は気持ちを改め、自分の将来と真剣に向き合う一年となりました。就職活動には誰よりも早く取り組み、放課後は必ず学校に残って自己分析やブランド研究を徹底しました。自分が苦しい時に支えてくれた方々への一番の恩返しは、第一志望の企業に就職することだと考えていたからです。そのため、実際に店舗へ何度も足を運び、接客を受けながら現場で求められる姿勢や価値観を学びました。また、店長の方と積極的にコミュニケーションを取り、自分に足りない部分や改善点を教えていただくことで、自分自身の成長にも繋げることができました。できることを一つずつ積み重ね、最後までやり切ることを意識して行動しました。

その結果、第一志望であった服飾ブランドから内定をいただくことができました。多くの方々の支えがあったからこそ掴むことができた結果であり、決して一人では成し得なかったものだと強く感じています。今後は社会人として、これまでの経験を糧にどのような困難にも粘り強く向き合い、努力を継続していきます。

そして、学生時代に支えていただいたように、今度は自分が誰かを支えられる存在となり、服を通して人に自信や価値を届けられる人材へと成長していきたいと考えています。